白石斎苑及び柴田斎苑建替整備運営事業

募集要項等に対する質問への回答

（早期回答分）

平成２９年３月１０日

仙南地域広域行政事務組合

■募集要項に関する質問への回答

No.	ページ	大項目	中項目	小項目	項目名	質問	回答
1	2	3	5)	(1)	白石斎苑	白石斎苑敷地9,720㎡の範囲、及び都市計画火葬場として位置決定を受ける8,100㎡の範囲について、図示いただけないでしょうか。	白石斎苑敷地については追加別紙１に、都市計画火葬場として位置決定を受ける範囲については追加別紙２に示すとおりです。
2	7	3	11)	(3) ①	事業費	事業費（3,490,614千円）は税抜きとの解釈でよろしいでしょうか。また、（白石斎苑1,712,561千円、柴田斎苑1,778,053千円）と各斎苑の事業費内訳がありますが、各事業費内に納まらない場合でも、両施設トータルで収まればよろしいでしょうか。	前段については、税込額です。なお、消費税抜額は3,209,964千円（白石斎苑1,573,039千円、柴田斎苑1,636,925千円）とし、消費税率については、平成29年度及び30年度は8%、平成31年度以降は10%として計算しております。 後段については、各斎苑事業費内訳の範囲内とします。
3	12	4	2)	ケ	その他の参加不適格者	本事業の契約関係を担当する弁護士事務所の会社名をお示しください。なお、この質問はチーム組成等の関係で、3月10日までに回答をお願いしたいです。	現在、契約関係を担当する弁護士事務所は未定です。

■要求水準書に関する質問への回答

No.	ページ	大項目	中項目	小項目	項目名	質問	回答
4	6 20 24	第1 第2 第2	7 4 4	 (5)イ⑥ (5)オ	燃料備蓄、災害時の対応 発電設備 燃料保管設備	大規模災害時の対応として3日間、24時間の連続稼働可能な燃料等の必要物品を備蓄するとありますが、この際の火葬件数は各斎苑何件と想定しておられるでしょうか。また、発電機出力は全炉同時稼働が可能な容量が必要でしょうか。 3日間連続稼働をした場合、燃料の備蓄量も膨大となるだけでなく、施設整備に係る費用やメンテナンス費にも大きく関わってまいります。想定件数に応じ、過剰施設･設備とならない提案にしたいと考えておりますので、ご教示いただきますようお願い致します。	前段については、各斎苑とも4回／炉・日を想定しています。 後段については、事業者が策定する災害発生時における火葬タイムテーブル及び運営計画に基づき火葬炉稼働が可能な発電機出力の容量を確保すること。
5	6	第1	7		燃料備蓄、災害時の対応	確認ですが、3日間の火葬件数とは、24時間稼働想定下の3日間という解釈で、よろしいでしょうか。	No.4に示すとおりです。
6	25	第2	4	(6)イ②	火葬能力	「遺体重量60～90kgを標準とし100kg以上の火葬も行えるものとする。棺25kg及び副葬品5kgを標準とする。」とありますが、遺体重量について各メーカーの設計条件を統一するため、「日本環境斎苑協会発刊」の「火葬場の建設・維持管理マニュアル」P145に記載の計算条件（遺体75kg、柩15kg、副葬品10kg、計100kg）と考えてもよろしいでしょうか。	火葬能力は要求水準書のとおりです。なお、燃焼計算にあっては、設計条件を統一するため、遺体重量を75kgとします。
7	25	第2	4	(6)イ②	火葬能力	「遺体重量は60～90kgを標準とし、100kg以上の火葬も行えるものとする。」とありますが、燃焼計算における遺体重量は、60～90kgの範囲で任意に設定してもよろしいでしょうか。	No.6に示すとおりです。